

様式3 令和6年度新座市学校評価システム学校運営協議会による評価シート

目指す学校像 (重点目標)	生徒一人一人の力が伸びる学校
------------------	----------------

学校名	新座市立第三中学校
実施日	令和7年1月17日

<記入の仕方>

- 「自己評価」及び「学校運営協議会による評価」の欄には、S A B Cを記入してください。
- 「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるか特記事項がある場合のみ記載してください。

評価項目「組織運営」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、働き方改革を進めるため、ICTを活用する等、校務業務を効率化し、教職員の意識を高めるよう組織的に取り組んでいる。	A	校務のICT化、日課表の工夫に加え、教職員の意識改革も進み、教職員の在籍時間は縮減している。部活動指導に関わる教員の勤務時間の縮減が頭打ちになっている点が課題である。新座市全体で進める部活動地域展開を機に、さらに加速させていきたい。	A	・ICTの活用やペーパーレス化は順調に進展しており、教職員にとって働きやすい環境になってきている。一方で働き方改革が、生徒の成長（教育の質向上）につながっているかを常に点検する必要がある。 ・ペーパーレス化を進めると同時に、手紙の配布等を希望する家庭への対応も検討してほしい。 ・部活動の地域展開については、今後も市と協力しながら進めていくことが重要である。

評価項目「学力向上」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、各教科の指導において「見方・考え方」を軸とし「学びの共同体」を生かした授業を展開し、資質・能力の育成に努めている。	A	「学びの共同体」についての授業研究が進み、共同体を生かした主体的で深い学びが定着してきている。教科の特性を踏まえた工夫も進んでいる。県の学力調査においても、国語・数学において学力の伸びが見られた。生徒自身が共同体で学ぶ意義をより深く理解し、共同体を生かした学び方を常にできるようにすることが今後の課題である。	A	・「学びの共同体」を生かした生徒主体の学習は、これからの時代に必要な学び方であり、一定の成果が出ていることも評価できる。 ・共同体への教師の支援のしかたについてより一層工夫と研究を進めてほしい。 ・グループ学習が苦手な生徒もいることや、学習内容によってはグループ学習が適さない可能性があることなども考慮し、さらに指導方法の工夫・研究を進めるとよい。

評価項目「豊かな心の育成」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、児童生徒一人一人が個の特性を認め合っている学校生活を送ることができる環境を整備している。	A	生徒一人一人に関する情報を教員間で共有し、組織的に指導を行う体制が構築されている。いじめの予防や初期対応についても適切に行っている。不登校予防が今後の課題である。今後は、さらに一人一人が抱える困難を早期に把握し、細やかに支援する体制を強化していく。	A	・生徒一人一人の情報が教員間で共有され、組織的な対応が生徒の安心感につながっている。生徒と教員、生徒同士が相談しやすい環境となっている。 ・教員が生徒一人一人に積極的に声かけを行っており、評価できる。今後は肯定的な声かけの重要性について教員が認識し、さらに一人一人の個性を伸ばす教育を推進してほしい。 ・いじめ等への対応についても、組織的かつ速やかな対応を意識してほしい。

評価項目「健康・体力の向上・安全」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	今年度は文科省のガイドラインに基づき、危機管理マニュアルの抜本的な見直しを行った。また、不審者対応の教職員研修も実施し、不測の事態に対する対応について共通理解を図った。教職員による安全点検のあり方の直しと日頃からの安全教育の充実が課題である。	A	・ガイドラインの見直し、職員への研修、生徒への安全指導や訓練などが計画的に行われている。 ・安全に絶対はないので、危機管理体制と生徒への安全指導のさらなる充実を期待する。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、保護者や地域の方が教育活動を参観できる機会を設けている。	A	学校行事やゲストティーチャーを招いた特別授業の公開を積極的に行った。授業公開も毎学期実施し、参観できる機会の確保に努めている。今後は、授業参観に加え、本校の学習指導の方針や評価の在り方（定期テストの扱い）など、本校の指導方針を積極的に発信していくことも課題である。	A	・授業参観、学校行事への参加等、機会は十分に設けられ「開かれた学校」というイメージにつながっている。 ・さらに保護者が参加できる機会を増やすとともに、保護者への告知方法の工夫なども検討し、より多くの保護者が足を運べるようになることよい。 ・学校の指導方針についてもさらに積極的に発信する工夫を検討するとよい。